

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第4号（普通期水稻）

1. 気象概要（アメダス：唐津地点）

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差	本年値	平年値	平年差
		℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	mm	mm	(%)	時間	時間	(%)
6月	1	21.4	20.9	0.5	26.2	25.2	1.0	17.4	17.3	0.1	15.0	18.2	82	26.2	27.3	96
	2	20.7	21.4	-0.7	25.1	25.4	-0.3	17.6	18.2	-0.6	26.5	27.2	97	18.3	24.5	75
	3	23.0	21.9	1.1	28.0	25.7	2.3	20.1	19.0	1.1	0.5	40.5	1	28.0	22.3	126
	4	23.5	22.4	1.1	30.0	26.1	3.9	19.4	19.6	-0.2	0.0	54.5	0	45.1	20.6	219
	5	23.0	23.0	0.0	26.9	26.6	0.3	20.5	20.4	0.1	63.0	65.1	97	16.7	17.8	94
	6	26.7	23.9	2.8	30.0	27.3	2.7	24.1	21.3	2.8	57.0	73.6	77	6.1	14.8	41
7月	1	26.0	24.7	1.3	29.9	28.0	1.9	23.3	22.2	1.1	176.5	87.3	202	11.2	15.2	74
	2	26.6	25.3	1.3	29.9	28.7	1.2	23.9	22.8	1.1	280.5	92.9	302	12.6	19.9	63
	3	28.5	26.0	2.5	31.8	29.6	2.2	26.0	23.2	2.8	3.0	74.1	4	21.1	26.4	80
	4	27.8	26.6	1.2	32.7	30.5	2.2	24.9	23.6	1.3	19.0	45.1	42	29.5	31.7	93
	5	27.5	27.3	0.2	32.9	31.4	1.5	24.2	24.3	-0.1	56.5	26.5	213	31.2	35.6	88

梅雨入りは5月29日で平年より6日早く、梅雨明けは7月25日で、平年より6日遅かった。そのため、6月上旬から7月5半旬にかけて降水量は多く、日照時間は短かった。気温は高い状態が続き、今後も平年より高い気温が続く見込みである。

2. 生育状況（調査日：7月25日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/7 移植 標高 650m	本年値	87.7	391	12.7	37.1	・草丈は高い ・茎数は平年よりやや多い ・出葉は平年並み ・葉色は平年より濃い
	平年値	81.4	385	12.6	33.2	
	平年比	108	102	+0.1	3.9	
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	68.4	314	11.3	40.6	・草丈は低い ・茎数はやや少ない ・出葉は平年並み ※平年値は佐志のH29~R2の 平均値のため参考
	平年値	75.8	331	11.4	37.1	

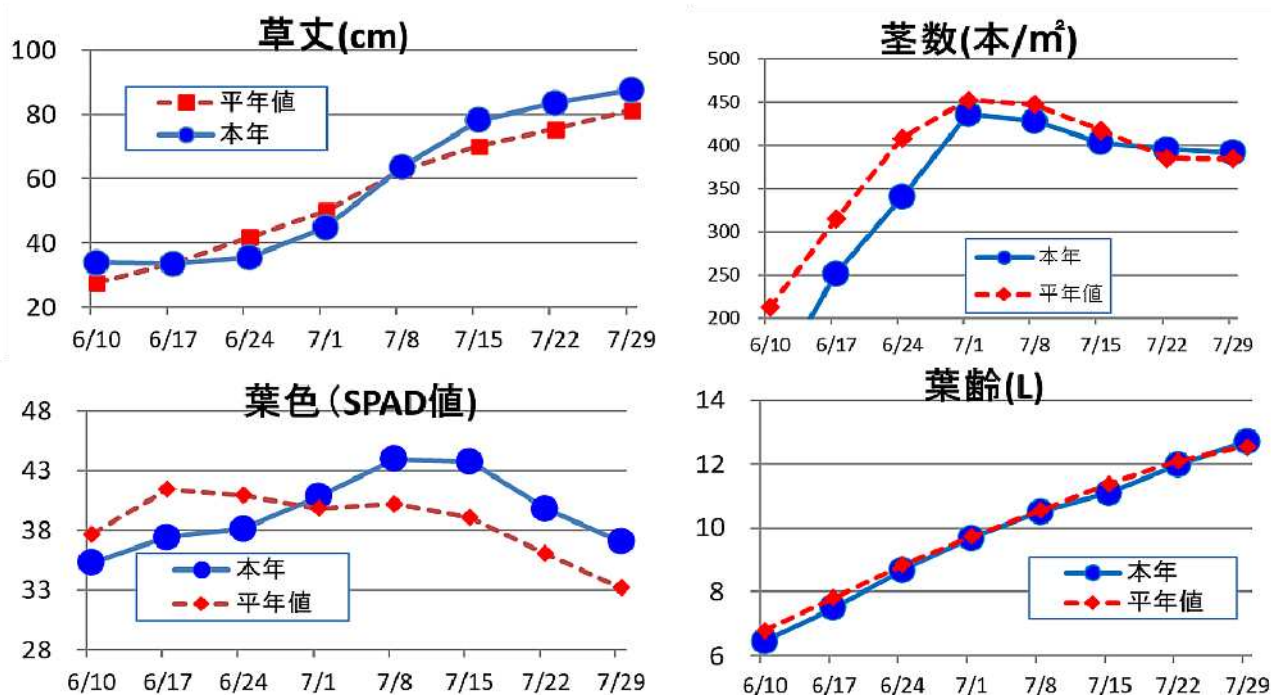
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主幹 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/21 移植	本年値	60.1	440	11.2	41.8	<ul style="list-style-type: none"> ・草丈は高い ・茎数は少ない ・出葉はやや進んでいる ・葉色はやや薄い
	平年値	54.7	527	10.9	42.5	
	平年比	110	83	0.3	-0.7	

(1) 山間早植え

草丈及び茎数は生育初期から中期にかけて低く、少なく推移していたが、最終的には平年並み～やや多い数値となった。葉色は濃い状態が続いている。作況のすべての調査株で止葉が抽出しており、数日中に出穂するものと思われる。

また、作況ほどは25株のはらい落としにより、トビイロウンカ幼虫が2頭、セジロウンカ幼虫が1頭見つかっている。

◎「コシヒカリ」作況圃の生育グラフ(厳木町天川)



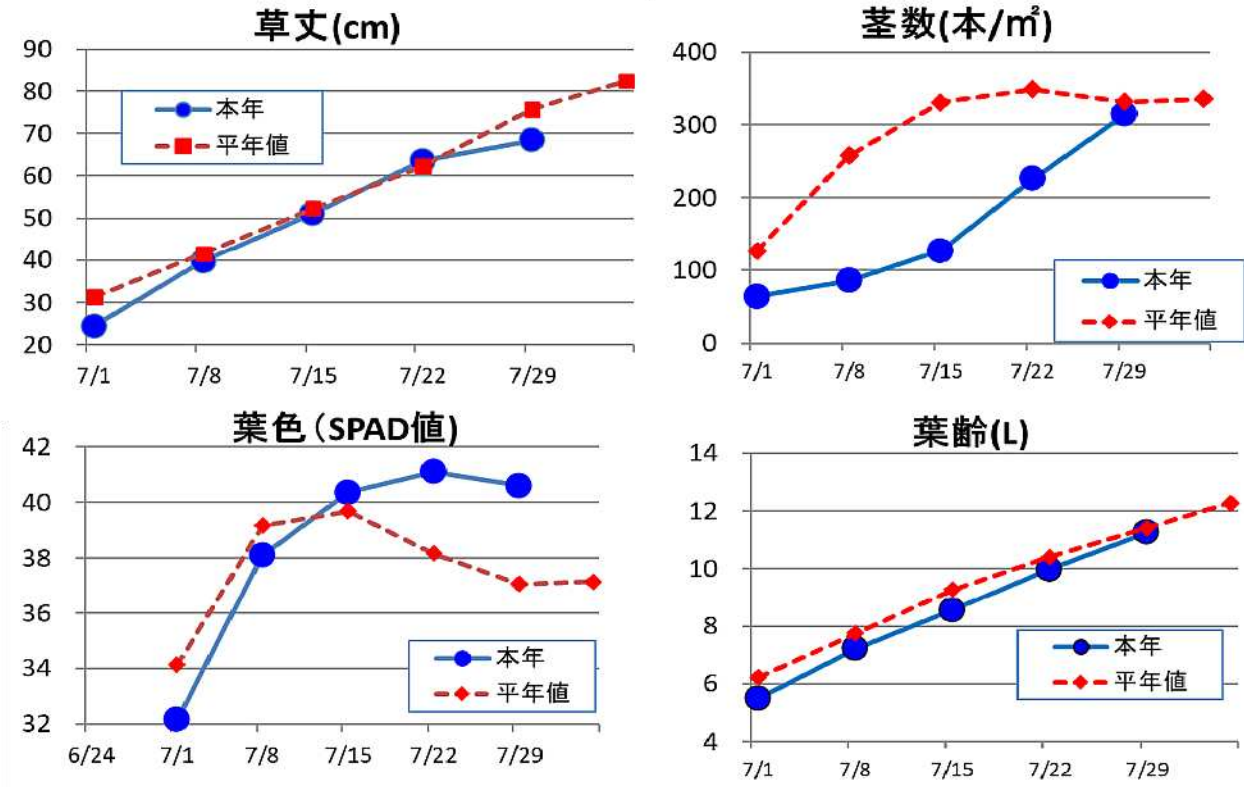
(2) 普通期水稻

「夢しずく」:6月上旬に移植されたものは、茎数の発生が順調で最高分けつ期となっている。6月中旬以降移植については初期生育が確保できていなかったが、茎数は徐々に増加している。

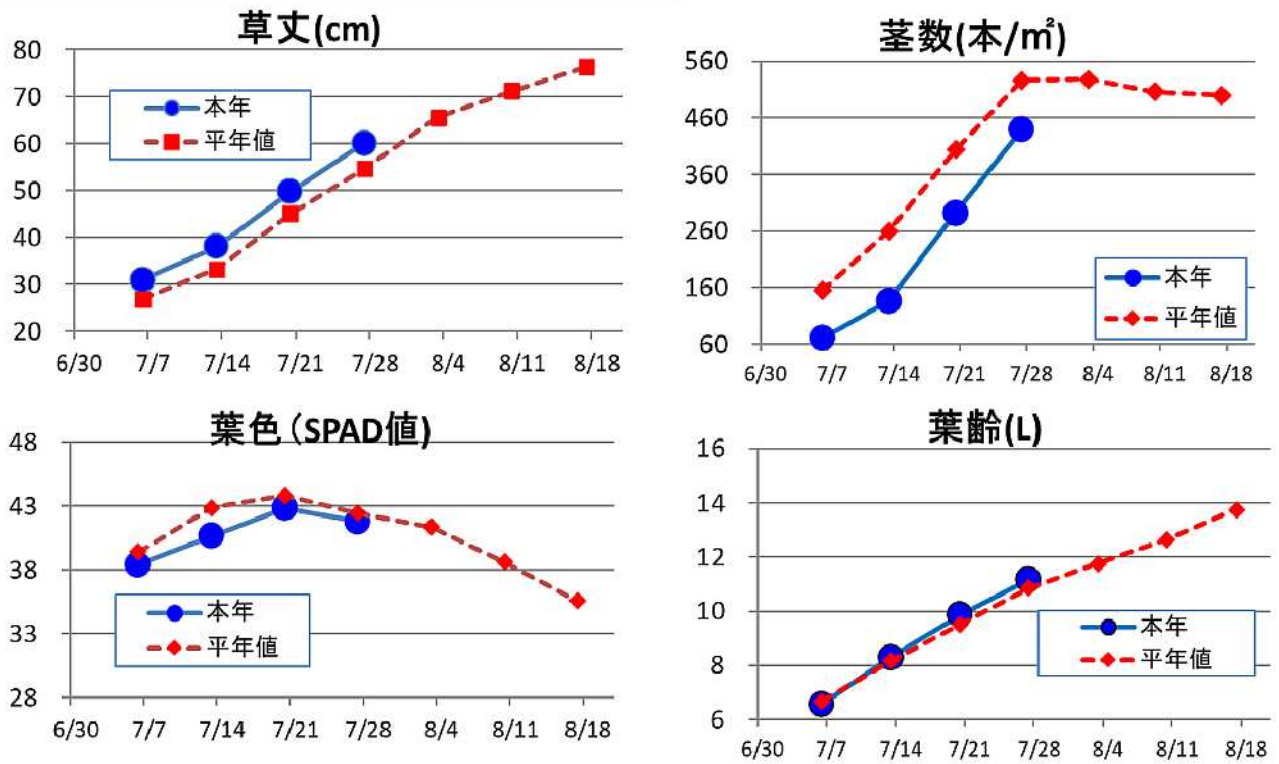
「さがびより」:平年と比べて茎数が少なく推移している。

これまでのところ作況ほどは病害虫の発生は見られない。

◎「夢しずく」作況圖の生育グラフ(相知町伊岐佐)



◎「さがびより」作況圖の生育グラフ(相知町相知)



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

・「コシヒカリ」は穂孕み期となっているため、間断灌水を行う。

幼穂形成期～穂揃期は稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らさないようにする。

②病虫害管理

・「いもち病」の病斑が見られる場合は、地域の栽培暦に従って速やかに防除を行う。

特に上位葉に病斑がある場合は穂いもちが懸念されるので出穂前の防除を行う。

ただし、特別栽培認証制度を申請した圃場では、農薬成分カウント数に注意する。

・本年はトビイロウンカの飛来が連続しており、多発生が懸念される。発生予察情報、ほ場の発生状況を参考に適期防除に努める。

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
トライフロアブル (テブフロキン)	2回以内	2回以内	収穫14日前まで	
オリブライト1キロ粒剤 (メトミノストロビン)	1回以内	1回以内	出穂10日前まで	湛水散布
カスミン液剤 (カスガマイシン)	2回以内	本田2回以内	穂ぞろい期まで	
コラトップ粒剤5 (ピロキロン)	2回以内	本田2回以内	葉いもち:初発10日前～初発時 穂いもち:出穂30～5日前まで	湛水散布
ビーム粉剤DL (トリシクラゾール)	3回以内	本田3回以内	収穫7日前まで	穂ばらみ期での 散布効果が高い

(2) 普通期水稻

①栽培管理

・「夢しずく」は中干しから間断灌水に移行する。

・「さがびより」は中干しの時期にあたる。有効茎数 20 本/株程度が確保された圃場では中干しに入る。なお、目安として、移植後 35～40 日の間である。草丈の目安は、「夢しずく」は 45～55cm、「ヒノヒカリ」は 40～50cm である。

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ

②夢しずく穂肥診断

夢しずくは7月中旬以降穂肥施用の時期であったが、本年は葉色の冷めが遅い圃場が多かったため、これまで穂肥を施用できなかった圃場の中で葉色が急激に冷めた場所については、以下の診断基準をもとに、減肥して迅速に施用すること。

1)「夢しずく」の穂肥診断基準(県基準)

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		窒素成分 kg/10a
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	
73cm 以 下	3.0 以下	34 以下	20-22	1mm	3.0
	3.0-3.5	34-38	18-20	2mm	3.0
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.5-2.0
	3.8 以上	40 以上	施用の場合止葉抽出終了まで		1.0 以下
73 79cm	3.0-3.5	34-38	18-20	2mm	1.5-2.0
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.0
	3.8 以上	40 以上	施用しない		0.0
80c 以上	原則として施用しない				0.0

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

2)夢しずく出穂前日数と幼穂伸長

出穂前日数(日)	主稈の幼穂長(mm)
-23~ -20	0.3~ 0.8
-20~ -18	1~ 2
-18~ -16	3~ 5
-15~ -12	5~ 80
-12~ -10	80~ 100
-7~ 0	100~ 200

←穂肥施用時期の目安

③病虫害・雑草管理

- ・置き苗はいもち病の発生源となるため早急に撤去する。
- ・初期除草剤のとりこぼしがあるほ場では、中後期除草剤の対応に遅れないようにする。
なお、特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。
- ・本年はトビウロウカの飛来が連続しており、多発生が懸念される。発生予察情報、ほ場の発生状況を参考に適期防除に努める。
- ・地域によってはコブノメイガが多発生している圃場が見られる。圃場によって発生状況が異なるので、発蛾最盛期(成虫発生盛期)を確認し、その1週間後に防除を行う。

トビイロウンカ発生予測（佐賀県農業技術防除センターより）



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第2版、2023年7月25日作成）

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

コブノメイガ発生予測（佐賀県農業技術防除センターより）

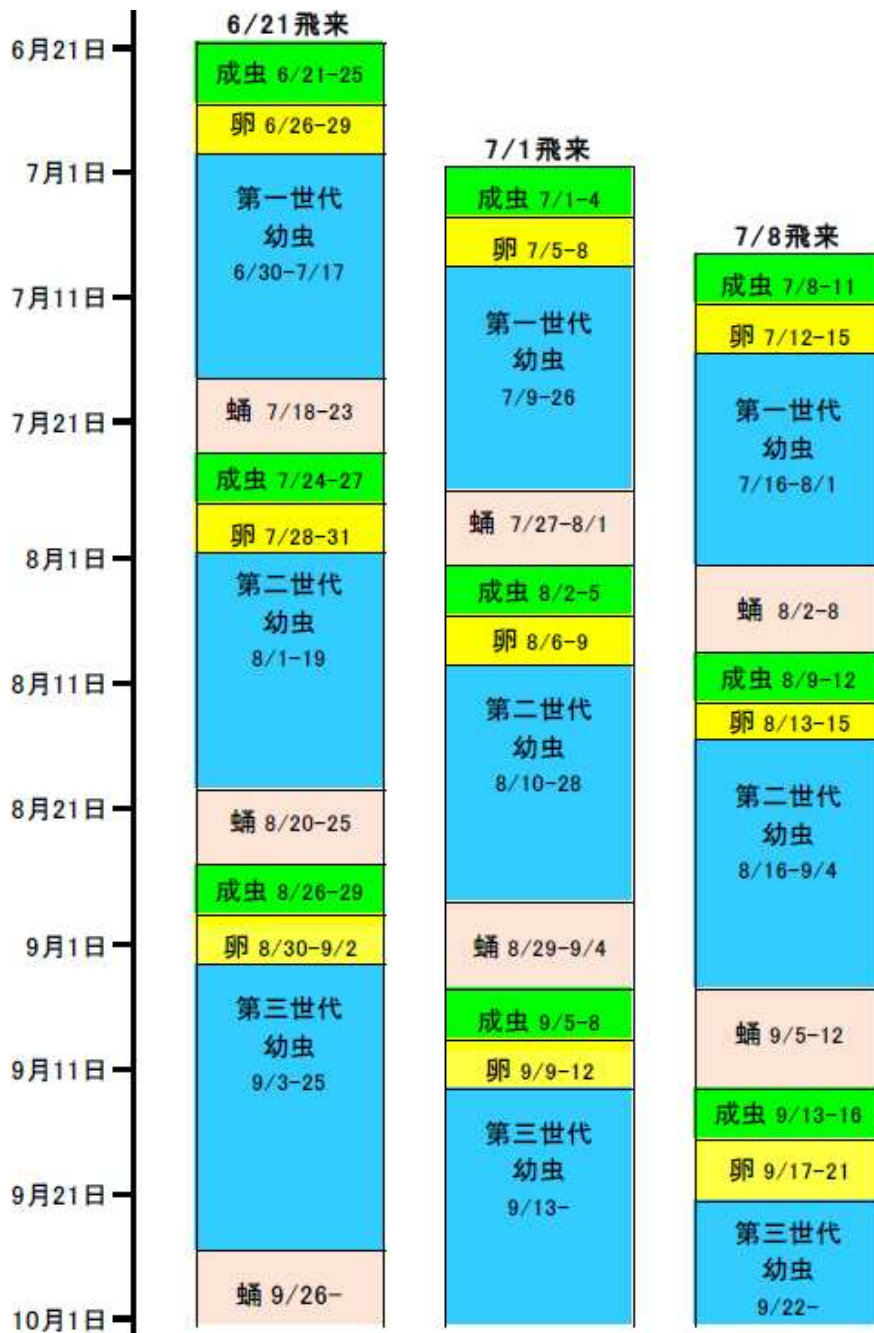


図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2023年7月25日作成）

1. 6月21日頃、6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和5年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター
水田農業・畜産担当

